

Report of
WHO-FIC Advisory Council
Geneva, Switzerland

14-15 April 2008
WHO Headquarter

Kenji Watanabe

Agenda 6.9

Other members of Family

- 6.9.1 International Classification of Nursing Practice
- 6.9.2 ATC
- 6.9.3 Primary Care Classification
- 6.9.4 Patient Safety Classification
- 6.9.5 International Classification of Traditional Medicine

Meeting of WHO-FIC members and Traditional Medicine Department

Participants

Traditional Medicine, HQ

Dr. ZHANG Xiaorui
Dr. WU Hou Xin

Two other members

WHO-FIC

Dr. USTUN Bedirhan
Dr. JAKOB Robert
Dr. MADDEN Richard
Dr. SHUTO Kenji
Dr. WATANABE Kenji

Meeting of WHO-FIC members and Traditional Medicine Department

WHO-FIC plans to incorporate the ICTM as a member of WHO-FIC. There are two purposes for this plan.

At first, it is to let the people be aware of traditional medicine because traditional medicines are the major medicine in the global sense.

Secondly, in order to get the proper statistics, traditional medicine should contribute.

All the participants agreed that traditional medicine is necessary for world health.

However there are so many traditional medicines and each of them is very complicated.

The problem of IST (terminology) are

1. Publication title includes "international" although HQ has not approved. This makes the misunderstanding to the people that this product was approved by HQ.
2. Even though IST derived many terms from the Chinese government, it was not described. Even though ICTM is independent of IST, it is better to have a meeting co-sponsored by Traditional Medicine department and ICD department together. In that meeting, related government officers and specialists are invited and make a principle that WHO-FIC is open for the traditional medicine and encourage them to make a product like ICTM EA.

This is very important because if only East Asian is accepted as a WHO-FIC member, it is not fair.

So it should be open for all the Traditional Medicines like Ayurveda or Homeopathy. Hopefully, the meeting will be held before (or during) WHO-FIC annual meeting in Delhi.

As a Result

- ◆ ICTM EA was not accepted as a related classification in the WHO-FIC Advisory Council.
- ◆ Official authorization by WHO HQ will be postponed until next WHO-FIC annual meeting, 26-31 October 2008 in Delhi, India

資料6

WHO ICD-TMワーキンググループ専門者会議 (WHO Expert Preparatory Working Group Meeting on ICD-TM)

【日程】2009年3月16-18日

【場所】WHO本部X-9

【目的】5月11日～13日に香港で開かれるWHO ICD-TM会議の準備会議

【参加者】

WHO本部:

1. Dr. Xiaorui Zhang, 伝統医学コーディネーター
2. Dr. Bedirhan Ustun, 分類・用語コーディネーター
3. Dr. Robert Jakob, メディカル・オフィサー、分類・用語
4. Ms. Sara Cottler, プロジェクト・マネージャー、分類・用語
5. Ms. Mistuko Imai, テクニカル・オフィサー (厚労省国際課より出向・薬系技官) 品質保証と安全性: 薬剤
6. Dr. Zhang Qi, メディカル・オフィサー、伝統医学
7. Dr. Molly Robinson, テクニカル・オフィサー、伝統医学
8. Ms. Jennifer Nash, インターン・伝統医学

専門者

1. Dr. Yu Haiyang (余海洋)、部長、政策・レギュレーション・管理部 State Administration of Traditional Chinese Medicine (SATCM)、中国
2. Professor Zhu Bangxiang (朱邦賢)、上海中医药大学、中国
3. Dr. Sang Zhen (桑珍)、中医病院サービスの質サーベイランスセンター、上海中医药大学、中国
4. Professor Mao Shusong (毛木対松)、湖北中医药大学、中国
5. Professor Wang Hua (王華)、学長、湖北中医药大学、中国
6. Mr. Ding Chong (丁冲)、部長、湖北中医药大学外交部、中国
7. Professor Ralph Edwards, Director, ウプサラモニタリングセンター、スウェーデン
8. Professor Kenji Watanabe、慶應義塾大学医学部漢方医学センター・センター長、日本
9. Dr. Marit Ronning, 部長, WHO 薬剤統計手法協力センター、薬剤疫学部、ノルウェー公衆衛生院、ノルウェー (電話会議での参加)
10. Dr. Christian Lie Berg, WHO 薬剤統計手法協力センター、ノルウェー (電話会議での参加)

プログラム (プレゼンテーション)

歓迎の言葉:

- Dr. ザン
- Dr. ウースタン

議長と書記の選出

- 議長: 渡辺賢治
- 書記: チョン氏

会議の背景と必要性ならびに今後の活動予定 -Dr. ザン

- 伝統医学が全世界で使われるようになったことと 2008 年 11 月の WHO の伝統医学に対する声明、この 1 月には Resolution も出されたとのこと

ICD 伝統医学版の必要性と背景 -Dr. ウースタン

- ICD を含めた WHO-FIC についての全般的な説明と伝統医学が入る余地のある ICD、ICHI、ATC についての説明

WPRO 作成 ICD-TM 案の紹介 -渡辺賢治

- 現在までの WPRO における ICTM の活動についての説明と WHO-FIC での 2 回のプレゼンテーションについて説明した。

中国における ICD-TCM 作業について -毛教授 (話し手: チョン氏)

- 1995 年に決められた国家情報システムで病名が 680 (?) 程度、証コードが 1624 存在する。

中医病院サービスの質国立サーベイランスセンターの活動 -朱教授 (話し手: Dr. サン)

- 中国ではすでに 100 の拠点病院で ICD10 とともに証コード (原則一つを付与) 2300 (湖北大学では 1995 年に作成した国家コードは 1624 だと言っていたが、それでは足りない)ので、さらに増やした、とのこと
今までにトータルで 30,000 件のデータが解析されてきた。
頻用されるコードと使われないコードも区別されている。

伝統薬の安全性モニタリング -エドワーズ教授

- 生薬の安全性モニタリングに対して現在までに 1000 くらいの生薬の副作用を集めている。
- 最近中国の SFDA と契約を交わして、中国からも生薬を含めた副作用を積極的に集める

ようにする。

ICD11改訂の道筋 -Dr. ヤコブ

- 2014年までに改訂版作成
- ペーパーレス、電子化される
- 定義がつく
- インフォメーションモデルを作成（オントロジーエンジンでコード同士の関連を作る。
- HiKi (WiKi Pedia と同様の仕組み：専門家がアクセスして変えていくことが可能である。
- 各科のトピック・アドバイザー・ボードが活動を開始した。
- 5年間で35億円の予算で計画されている。

ATCコードについて - Dr. ロニング、Dr. リーバーク（電話会議）

- 現在ATCは西洋医学の薬剤のみ扱っており、生薬に関してはこの20年くらい、扱わない方針できた。
- 基本的に薬剤が（A解剖学的）（T薬理学的）に分類される。生薬の場合はターゲット臓器が多数にわたっており、ATCには乗りにくい。

討論の要点

本プロジェクトの最終目的

- 伝統医学の用語と分類に関する標準化を図る。
- 伝統医学の診療情報の標準化を図る
- それら標準化された情報をデジタル化する

香港会議について

日程：5月11日～13日

参加者は50-70名を予定

予定参加国：

東アジア伝統医学：日本、中国、韓国、ベトナム、オーストラリア

アールヴェーダ：インド

ホメオパシー：ドイツ、英国、フランス

？：ブータン、モンゴル

政府代表者1名と専門者1名までは主催の香港が賄う。

会議の目的：伝統医学を国際医療情報システムに載せていく道筋について話し合う。

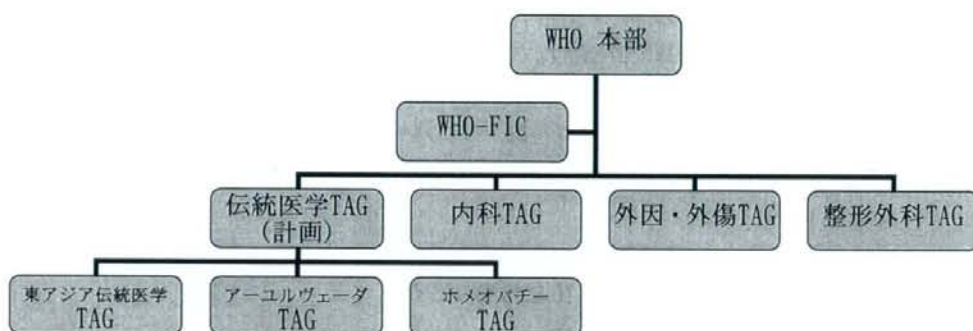
国際医療情報システムには疾病分類ICDのみならず、治療分類ICHI、安全性報告のための安

全性モニタリングも含まれる。

中でもICDは最優先であり、ICD11に載せるための基準を作成し、各サブグループに分けて、その基準を満たせるかどうかの検討を行う。

ICD11に向けて内科等が行っているトピック・アドバイザー・グループ (TAG) を作る。上位のTAGはすべての伝統医学に対して国際医療情報に載せるための活動を行う。その下に各伝統医学ごとのサブグループを作成する。

現在TAGは全部で10 (内科、外因・外傷、整形外科、神経、周産期、精神、眼科、新生物、皮膚、稀な疾患) (これに歯科が加わって11になる予定) 伝統医学TAGはそれと並列になる。



国際医療情報システムに載せていく基準

1. 診断、治療法が系統だっていること。
2. 地域のみだけでなく世界で用いられていること
3. 伝統医学診断に関しては定義・説明があること

利用できるリソース

- WPRO ICTM EA
- WPRO による用語集
- 国におけるエフェート：中国 TCD-GB、韓国 KCD-OM、日本 Kampo codes
- UMC (Uppsalla monitoring center) と中国 SFDA の合意

ICTM EAに関して

- まずネーミングに対して中国からクレームがあった。TCM が国際標準になっているのではないかと。予想されたことであるが、ICTM EA という用語が WPRO として提案した ICTM/WPRO を WHO-FIC のレベルで ICTM EA にされたことを報告
- ザンさんから Chinese Medicine based Medicine という呼称が提案された。
- しかし韓国がいないので、この議題の結論は避けた。

- 中国がTCMをどうしても残したいのであれば、TCM/Han Medicine/Kampo Medicine とするの一案であるかもしれない（渡辺私案）
- 用語に関しては見直し作業をする。
- コードに関しては ICD11 自体がペーパーレスになり、拡げられるので、入れたいだけコードを入れる。ただし定義がなくてはいけない。定義が国ごとに違う場合もあるので、ひとつの国で代表して一つの定義を出す。
- サブグループ・ミーティングは年 2-3 回のペースで行う。各国 政府代表 1 名、専門家 3 名、情報の専門家 1 名を原則とする。
- ミーティング資金の拠出ルールを決める必要があるが、東アジア伝統医学に関しては今まで通り、人数を区切ってホスト国が負担するのがいいのではないか、という意見が出た。もしくは参加国負担か。今までのように WHO もしくは WPRO からのお金は期待できそうにない。

東アジア伝統医学ICTM（今回ICD TMとなっていました）作成予定

- 2009 アルファ版確定、WPRO ICTM EA をベースにそれを拡げる。
- 作業としてはサブグループで話し合っ進めるが、現在の ICTM EA アルファ版を WHO-FIC の HP にアップし、それを基に意見をメールで集める。
- 2010 アルファ版検証ならびに情報モデルの作成（日本では医科歯科大学医学部の中谷純先生を中心に行う。
- 2010 年末までにベータ版を確定する。
- 2011 年ベータ版検証ならびにベータ版を用いた情報モデルの作成
- 2012 最終版を確定